

# 信州大学の学生さん達へ

## 飯山市をぜひ紹介します

皆さんは飯山市というすぐにイメージが浮かびますか？  
この市は長野県の最も北側に位置し、平成27年（2015年）7月1日現在の人口が21,545人という小さな市です。平成16年（2004年）8月20日、信州大学が最初に連携協定を結んだのが飯山市でした。また、平成25年（2013年）11月21日には信州大学附属図書館工学部図書館と市立飯山図書館との間で連携協定も結ばれました。



こうした縁により、本年6月1日の附属図書館中央図書館リニューアルオープンを祝って、5月13日には信州大学附属図書館に飯山市から飯山仏壇伝統工芸師・鷺森誠様の製作された信州大学の彫金の学章を御寄贈いただきました。



現在、大学の大きな使命に、教育・研究・地域貢献があります。飯山市との連携協定書には、「地域文化の振興」「地域経済の振興」「人材の育成」「生涯学習」「まちづくり」「学術研究」「インターンシップ等の現地学習」「施設の利用」などで連携・協力することがうたわれています。その結果、飯山市には人文学部、教育学部、農学部など、多くの学生と教員が入って研究し、地域のためにも役立っています。

しかしながら、県外出身者が圧倒的の多くを占める本学の学生さんたちは、この市のことを知らないのではないのでしょうか。皆さんは文部省唱歌「ふるさと」をご存じだと思います。これを作詞したのは高野辰之です。彼は現在の中野市（旧豊田村）の出身で、明治22年（1889年）下水内高等小学校（現長野県飯山市）を卒業しています。冬期間、通学遠距離のため飯山市の真宗寺を寄宿舎としていました。その後彼は明治30年（1897年）に長野県尋常師範学校（現・信州大学教育学部）を卒業していますので、本学とも縁の深い人です。長野県師範学校卒業後は下水内高等小学校訓導を勤め、下宿をしていた真宗寺の娘さん（三女）と結婚をしています。

彼は他にも、「朧月夜」「もみじ」「春がきた」「春の小川」などの作詞もしていますが、そうした歌詞作成に飯山の風土も大きな影響を与えました。



飯山は人情が温かく、独特の景観と歴史を持った素晴らしい地域です。冬は何メートルも雪が積もり、春になると菜の花が咲き、夏にはむせかえるような緑、そして錦織なす紅葉と、四季が鮮やかです。皆様が大学にいるとき、一度は飯山を訪れてみるのも良いと思います。

こうした飯山市と本学との特別な関係をもとに、この度中央図書館では飯山市の展示会を催しました。信州の文化が、いかに多様性があり豊かであるかを知っていただくための入口として、今回の飯山市の展示を見ていただけたら幸いです。

平成27年9月  
信州大学附属図書館長  
笹本 正治



中央ナナちゃん

